

鹿児島県保育連合
保育士等キャリアアップ
研修

幼児教育

第一幼児教育短期大学

西元 道子

保育士等キャリアアップ研修 幼児教育

令和3年11月20日（土）

1. 幼児教育の意義
2. 幼児教育の環境
3. 幼児の発達に応じた保育内容
4. まとめと課題について

令和4年2月12日（土）

1. 幼児教育の指導計画、記録および評価
2. 小学校との接続
3. まとめ

往還型研修

- 施設長
- 保育士、保育教諭
- 看護師
- 栄養士
- 調理員
- 事務長、事務員

それぞれの
職種の専門性

保育に携わるすべての保育所職員



保育士等

次回に向けた課題について

1. 各園、子ども主体の活動の保育実践例を持ち寄りましょう。

次回2回目となる2月の研修時に、グループに分かれ、持ち寄った保育実践について 協議していただく予定です。

2. アプローチカリキュラムを作成している園は次回ご準備ください。

グループに分かれて考えてみましょう①

1. 自園の保育実践例を紹介しましょう。
2. その活動が、5領域または10の姿のどの部分を育むことにつながっているか考えてみましょう。

幼児教育の指導計画、 記録および評価

保育士等キャリアアップ研修【幼児教育】

第一幼児教育短期大学 西元道子

幼児教育の指導計画、 記録および評価①

1. 全体的な計画と 指導計画

保育所における保育

保育所における保育は、**計画**とそれに基づく養護と教育が一体となった**保育の実践**を、保育の記録等を通じて**振り返り**、**評価**した結果を**次の計画の作成に生かす**という、循環的な過程を通して行われるものである。

PDCA



児童福祉法
保育所保育指針
保育理念
教育目標
園の特性・地域性

全体的な
計画

保育課程

子どもの実態

目指す
子どもの姿

どのような**経験**が必要か

指導だけでは身につかない
子ども自身の気づきが重要

全体的な計画

指導計画（長期）

3歳以上・3歳未満

指導計画（短期）

3歳以上・3歳未満

個別の指導計画

特別な配慮を必要とする子ども

保育の計画

再び 評価

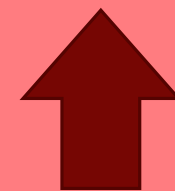
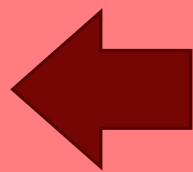
実 践

カリキュラム
マネジメント

改 善

計画が適していたか

評 価



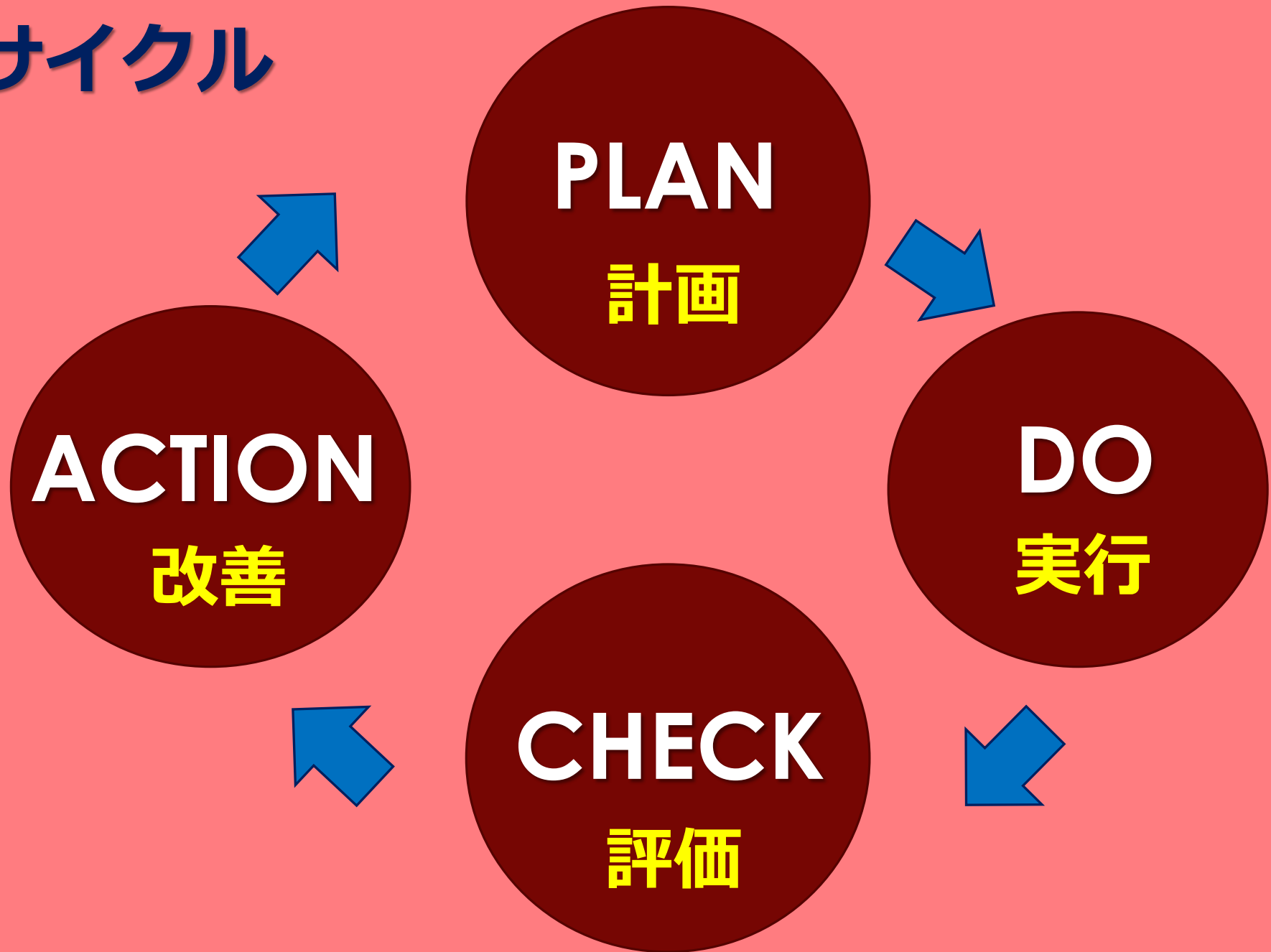
めざす保育を確実に実践するには
(子ども達の幸せのためには)

➡ 保育の質が保たれなければ

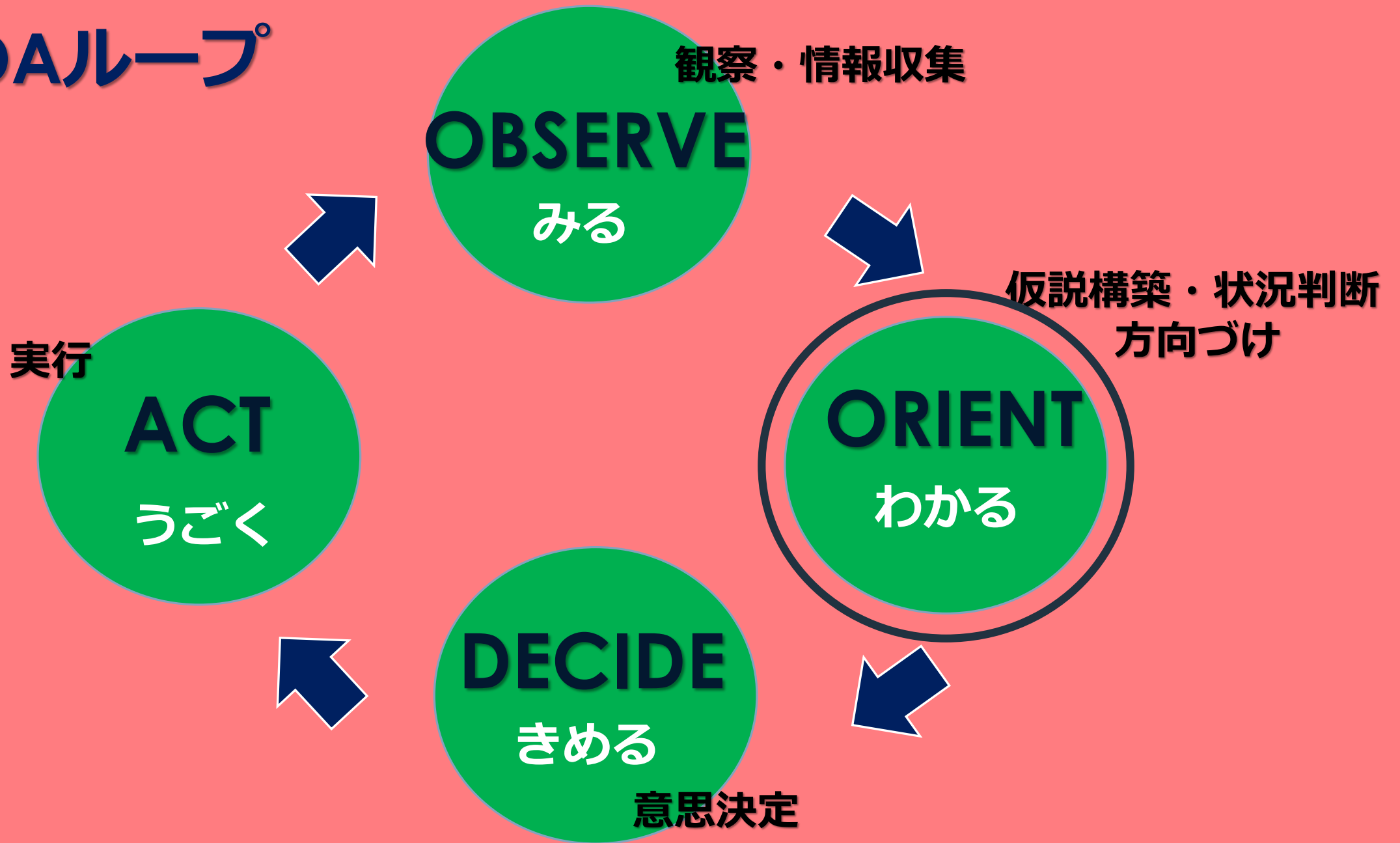
活動をPDCAのサイクルで
マネージ（管理）する必
要がある

2. PDCA と OODA

PDCAサイクル



OODAループ



Observe 目の前の子ども達の姿をよく見る

観察する 情報を収集する

Orient どのような関わりがふさわしいか考える

状況判断をする 仮説を立てる
振り返る

Decide 様々なことを想定したうえで、意思決定する

最良と思われる方法を
決断する

Action 声掛けをしたり、環境を整えたりする

Dで決めた援助や
配慮を実践する

PDCAサイクル

日本科学技術連盟 品質管理の研究機関
1951年

工場での生産性を高めるために作られたフレームワーク

決められた工程をいかに低いコストで進め、いかに高い生産性を発揮するかという課題に対する改善を図るのに最適
トヨタ

想定外のことが起きない前提

マネジメント（管理）

OODAループ

米国の軍事戦略家 ジョン・ボイド氏
1970年代

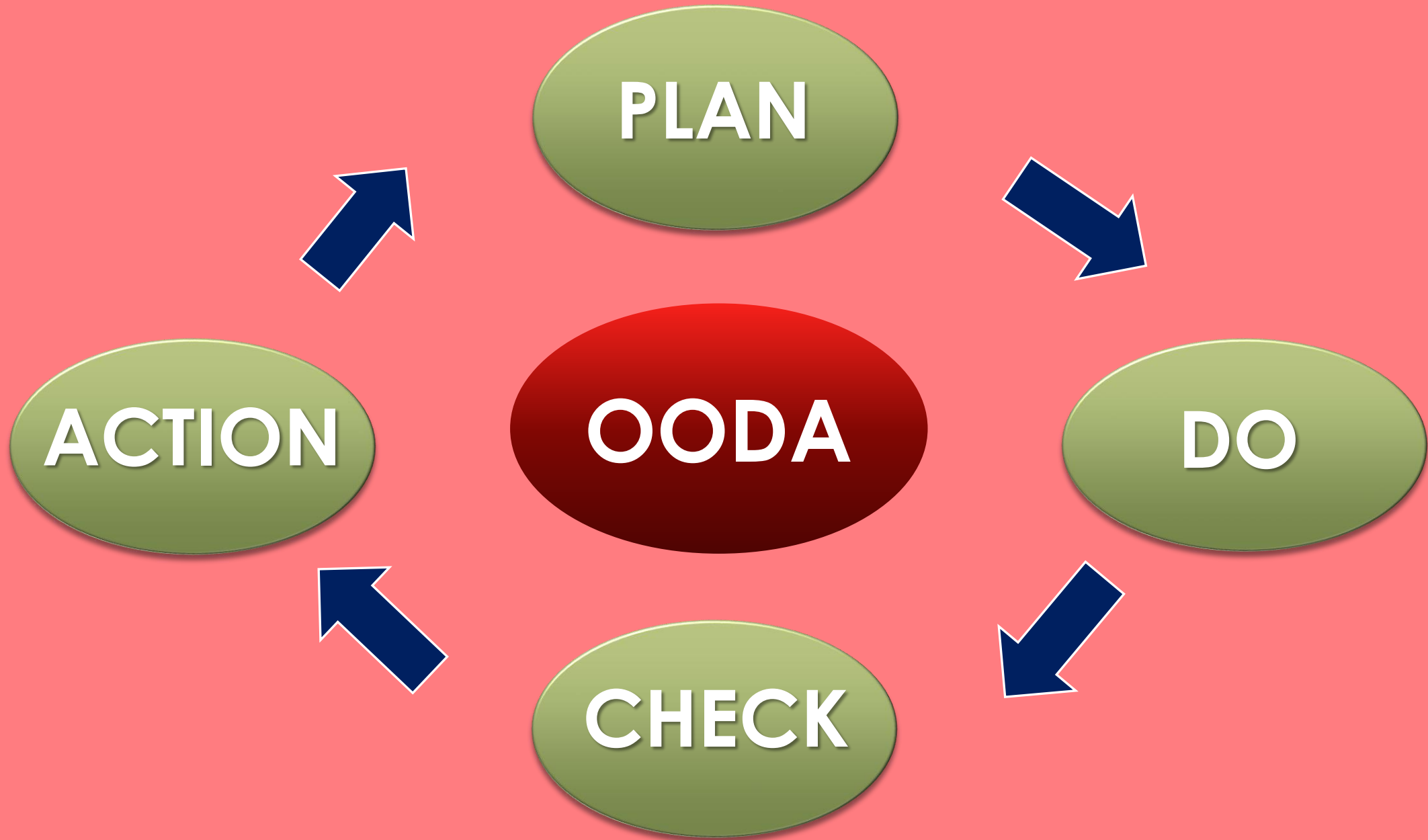
先の読めない状況で、成果を出すための意思決定方法 40秒

不明確で常に変化していく状況の中で、現状にあるものから最善の判断を下し、即座に行動を起こす

第5次産業革命（知能革命）

想定外のことが起きる前提

オペレーション（作業）



PLAN

DO

OODA

ACTION

CHECK

3.カリキュラム マネジメント

カリキュラムマネジメントとは

このような考え方をベースに、**全教職員**の協力体制のもと、**組織的・計画的**に教育活動の質の向上を図ることである。

**組織的・計画的に
進めるには**

園長

ブレーン
1

ブレーン
2

保健衛生
安全対策

乳児保育

幼児教育

障害児保育

食物
アレルギー対応

保護者支援
子育て支援

フリー
1

担任
1

担任
2

担任
3

担任
4

担任
5

担任
6

担任
7

フリー
2

フリー
3

栄養
士8

調理
士9

調理
士10

看護
師11

事務
12

フリー
4

ステップ1

編成に対する園の基本方針を明確にする

ステップ2

指導計画の編成・実施のための組織と日程を決める

ステップ3

指導計画の編成のための事前の研究や調査を実施する

ステップ4

指導計画の編成の基本となる事項を決める

ステップ5

指導計画（全体的な計画）を編成する

ステップ6

指導計画（全体的な計画）を評価し改善する

指導計画の編成

年齢別の計画
行事の計画
特色ある活動の計画

保育の実践

自己評価

保育士等の自己評価の実施
保育所の自己評価の実施
保護者その他関係者評価の実施
評価結果の公表
評価結果の設置者への報告

児童福祉法

保護者アンケート

1. あなたの園で、教育課程を編成する上で、**リーダー**となるのはどなたですか。
2. **リーダー**は、園の子どもの実態をよく把握し、理解していますか。
3. **リーダー**は職員一人ひとりの良さや特性を掌握していますか。
4. **リーダー**は編成に対する基本的な考え方を明確にしていますか。
5. **リーダー**は思いつきで職員を振り回していませんか。

6. リーダーの思いや園の教育方針をよく理解している
ブレンはいますか。
7. そのブレンは、職員とリーダーをつなぐ役割を担っていますか。
8. 一人ひとりの先生方は、園の教育方針と目指す子ども像をよく理解し、他者に具体的に説明することができますか。
9. 一人ひとりの先生方は、子どもの姿や変容を把握し、それを同僚やブレンに伝え、自覚を持ってマネジメントに関わっていますか。

それぞれの立場で、カリキュラム マネジメントに関わる

リーダー (園長)

グランドデザイン
を描く

ブレイン (副園長・主任・主幹)

それを具体化
する

メンバー (担任・フリーの教員)

実践する

10. **園行事や活動**は、**園の教育理念や教育方針と乖離したもの**になっていませんか。
11. **カリキュラムマネジメントを無理なく取り入れられる年間予定**になっていませんか。
12. **カリキュラムマネジメントによって改善された活動や行事について、保護者に丁寧に説明**していますか。

適切な役割分担（園務分掌）

**カリキュラムマネジメントを
園の年間予定表に落とし込む**

職員間に、小さな疑問や
意見をくみ取ってもらえ
る環境があるか。

ノンコンタクトタイム
(子どもに接しない時間)
をいかに確保するか

リーダーとブレンは、
幼児教育の動向にアンテ
ナを張り、情報収集に努
めているか。

それらを職員間で共有
しているか。

カリキュラムマネジメント
の最終目標は

子ども達の幸せ

グループに分かれて考えてみましょう②

1. 自園の行事等のPDCAはどのように行っているか、紹介しましょう。
2. PDCAがうまく機能している事例、そうでない事例について理由を考えてみましょう。

幼児教育の指導計画、 記録および評価②

1.保育に生かす記録

記録と保育内容の見直し

保育士等は、子どもの実態や子どもを取り巻く環境の変化などに即して**保育の過程を記録する**とともに、これらを踏まえ、指導計画に基づく**保育の内容の見直し**を行い、**改善を図る**こと。

記録のポイント

①子どもに焦点を当てて、生活や遊びの時の様子を思い返してみる視点

②保育士等が自分の設定したねらいや内容・環境の構成・関わりなどが適切であったかといったことを見直してみる視点

兒童票

保育經過記錄

保育日誌

ヴィジブルな保育記録

- ▶ ポートフォリオ
- ▶ ドキュメンテーション
- ▶ ラーニングストーリー

可視化

2. 学び合いと自己評価

保育士等の自己評価

(ア) 保育士等は、保育の計画や保育の記録を通して、自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通して、その専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない。

(イ) 保育士等による自己評価に当たっては、子どもの活動内容やその結果だけでなく、子どもの心の育ちや意欲、取り組む過程などにも留意すること。

(ウ) 保育士等は、自己評価における自らの保育実践の振り返りや職員相互の話し合い等を通じて、専門性の向上及び保育の質の向上のための課題を明確にするとともに、保育所全体の保育の内容に関する認識を深めること。

保育士所の自己評価

(ア) 保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ、当該保育所の保育の内容について、自ら評価を行い、その結果を公表するように努めなければならない。

(イ) 保育所が自己評価を行うに当たっては、地域の実情や保育所の実態に即して、適切に評価の観点や項目等を設定し、全職員による共通理解をもって取り組むよう留意すること。

(ウ) 設備運営基準第36条の趣旨を踏まえ、保育の内容等の評価に関し、保護者及び地域住民等の意見を聴くことが望ましいこと。

3. 第三者評価

第三者評価の意義

第三者評価を受ける前の自己評価に職員一人一人が主体的に参画することで、職員の意識改革と協働性が高められることや第三者委員会保育士等は、子どもの実態や子どもを取り巻く環境の変化などに即して**保育の過程を記録する**とともに、これらを踏まえ、指導計画に基づく**保育の内容の見直し**を行い、**改善を図る**こと。

小学校との接続

保育士等キャリアアップ研修【幼児教育】

第一幼児教育短期大学 西元道子

小学校との接続①

アプローチカリキュラムと
スタートカリキュラム

幼児期の教育

今の学びがどのように育っていくのかを見通した
教育課程の編成・実施 アプローチカリキュラム

小学校教育

今の学習がどのように育ってきたのかを見通した
教育課程の編成・実施 スタートカリキュラム

互いの教育の内容の深さや広がりを十分に理解した上で、それぞれの教育内容を充実させることが重要であり、一方が他方に合わせるものではない

アプローチカリキュラム

アプローチカリキュラムとは、アプローチ期に身に付けさせたい力や育てたい力を具体的に明らかにし、一人一人がその力の育つ方向に向かっているかを確認し、保育実践や小学校教育との接続に役立てる教育課程である。

幼児の発達や学びの連続性を保障するために 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図ることが重要

そのためには、幼児期と児童期の教育双方が接続を意識する期間として、**接続期**を設けることが必要

接続期は、幼児期の教育から小学校教育への準備や慣れるための期間ではなく、子どもの発達や学びの連続性を踏まえて捉えなければ。

スタートカリキュラム（義務規定）

入学した子ども達が小学校に慣れるための教育課程。

小学校1年生の最初の数か月間は、幼児期に親しんだ活動を取り入れる、子どもの生活リズムに合った時間配分をするなどして、少しずつ教科の学習中心の生活に移行していく。

生活科を中心に

文部科学省は、令和2年度よりすべての小学校でスタートカリキュラムを取り入れることを定めた。

グループに分かれて考えてみましょう③

1. 自園のアプローチカリキュラムを紹介しましょう。
2. 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿と関連付けているか確認してみましょう。

	幼児期の教育	小学校教育
教育課程の 基準	幼稚園教育要領、保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領	小学校学習指導要領
	健康・人間関係・環境・言葉・表現	国語・社会・算数・理科・生活・音楽・ 図画工作・家庭・体育・道徳・外国語活 動・総合的な学習の時間・特別活動
教育課程の 構成原理	経験カリキュラム (一人一人の生活や経験を重視)	教科カリキュラム (学問の体系を重視)
	方向目標 (その後の教育の方向付けを重視)	到達目標 (具体的な目標への到達を重視)
教育の方法等	遊びを通した総合的な指導	教科等の目標・内容に沿って選択された 教材による指導
学びの形態	学びの芽生え（無自覚な学び） 学ぶことを意識していないが、楽しいことや 好きなことに集中することを通じて、様々な ことを学んでいくこと	自覚的な学び 学ぶことについての意識があり、与えられた課題 を自分の課題として受け止め、計画的に学習を進 めていくこと

<アプローチ期の分け方>

例1：3期に分ける

I期（9～10月） II期（11～12月） III期（1～3月）

利点	自園の教育課程で使っている期の分け方に対応させてアプローチカリキュラムを作成する。教育課程と揃っているため、作成しやすい。
----	---

例2：2期に分ける

I期（10～12月） II期（1～3月）

利点	運動会前後で幼児の生活や育ちに大きな変化が見られることを見通し、運動会後の10月からを接続期と捉えて作成する。発達の変化に焦点化するため、幼児の育ちや学びが整理しやすい。
----	---

例3：2期に分ける

I期（9～12月） II期（1～3月）

利点	学期ごとにまとめる個人記録等をもとに、アプローチカリキュラムを作成する。幼児一人一人の育ちや学びについて振り返ることができるので、カリキュラムを検証しやすい。
----	---

〇〇幼稚園（保育所・認定こども園）アプローチカリキュラム（例）

※園の実態に合わせて作成します。

	9月～10月	11月～12月	1～3月
ね ら い	生活する力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1日の園生活の流れを見通しをもち、友達と声を掛け合って行動する。 ○ 着替えや持ち物の始末を進んで行う。 ○ 自分たちで当番活動を進めようとする。 ○ 健康や安全の大切さを知り、必要な生活習慣を身に付ける。（うがい、手洗い、衣服調節など） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時間を意識しながら生活に見通しをもち、場や状況に応じた行動をとる。 ○ 生活の場を進んで整えたり、整えたりする。 ○ 戸外で身体を動かし、進んでいろいろな運動や集団遊びをする。 ○ 昼食を一定の時間内に食べる。
	学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話を注意して聞き、内容を理解する。（～3月） ○ 読み聞かせの中で、想像する楽しさを味わう。 ○ 遊びや活動に興味をもち、図鑑で調べたり積極的に関わったりする。 ○ ルールや勝敗のある遊びを繰り返し楽しむ。 ○ 遊びを通して文字や数に興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 難しいことや新しいことに挑戦しようとする。 ○ 話を聞いて感じたり考えたりしたことを伝え合う。 ○ 季節の変化に気づき、好奇心や探究心をもつ。 ○ 文字・数・標識などを遊びに取り入れ、関心を深める。 ○ 劇や歌遊び、楽器遊び、造形活動で自分なりの表現を楽しむ。

関 わ る 力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園のきまりや遊びのルールを守って遊ぶ。 ○ 共通の目的に向かって協力し取り組む。 ○ 思いを出し合っかかわりを深める。 ○ 友達の困った様子が分かり、励ましたり助けたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遊びや生活を通して、友達と役割を分担したり、協力したりしながら、相手の考えに気づき、よさを認め合う。 ○ 自分の思ったことや感じたことを友達に話したり、友達の考えを受け入れたりしながら、遊びがより楽しくなるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 約束やきまりを守り、様々な場面や場所において望ましい習慣や態度を身に付ける。 ○ 考えたことを筋道立てて話したり、言葉を交わし合ったりする楽しさを味わう。 ○ 小学生と関わる中で、安心して就学を迎えようとする。 	
	重点指導事項及び主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 話す人の目を見てお話を聞く。 ○ 生活体験（したことと感じたこと）を話す。 ○ いすに座って短時間の活動を行う。 ○ 決められた時間の中で活動や準備等を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 話す人に身体を向けて、正しい姿勢で話を聞く。 ○ 友達に分かるように具体的に話したり答えたりする。 ○ いすに座って40分程度の活動を行う。 ○ 友達と協力しながら、時間を意識して行動する。
手 間 事	5歳児交流活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校運動会参加(10/) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生との交流活動(11/) ・ 芋掘り(11/) ・ 合同もちつき大会(12/) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昔の遊び(1/) ・ 1日入学体験(2/) ・ 1年生との交流活動(3/)
	幼小連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼保小合同研究会(9/) ・ 教育講演会(10/) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼保小合同研究会(11/) ・ 就学時健診(11/) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼保小合同研究会(2/) ・ 幼保小連絡会(3/)

小学校との接続②

保育所児童保育要録

保育所児童保育要録とは

子どもに関する情報共有に関して、保育所に入所している子どもの就学に際し、市町村の支援の下に、**子どもの育ちを支えるための資料**が保育所から小学校へ送付されるようにすること。

保育所児童保育要録の記入にあたって①

小学校での指導に参考となるようにする。

保育要録は、保育所や子どもの状況に応じて柔軟に作成し、一人一人の子どものよさや全体像が伝わるように工夫して記す。また、子どもの最善の利益を考慮し、保育所から小学校へ子どもの可能性を受け渡していくものであると認識することも大切である。

保育所児童保育要録の記入にあたって②

記入の前に

保育要録を作成する際には、一年間の保育記録を読み直し、その子どもにどのようにかかわり、指導をしてきたのか、その結果その子どもはどのような変容をしてきたのか等、**その保育の過程を整理して結果をまとめる**ことが必要である。

相対評価ではなく絶対評価で

発達の姿の記入にあたっては、他の子どもと比べたり、一定の発達基準に照らしたりするのではなく、**その子どもの年度当初の姿と比較し**、成長や発達している姿をその子どもなりの一歩としてとらえていく。

指導要録・保育要録

- ・ 幼児理解の上に立った適切な評価を行い、それらを整理し記録としてまとめたもの。
- ・ 次の指導者に送るメッセージである。
- ・ 保護者にも周知しておくことが望ましい。
- ・ 平成30年度から新様式で作成されることとなった。(H30.3.30通知)
 - ⇒最終年度の5歳児の記録について、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して記入できるように項目と内容が変更になった。
- ・ 情報通信技術を活用して、書面の作成、保存、送付を行うことが可能である。(電子署名が可能)

個人情報管理